

保育者養成としての「体育」における「自ら動ける身体作り」についての検討(1)

白梅学園短期大学 若松美恵子

I, はじめに

保育者養成のカリキュラムにおいて、「体育」は「音楽」「図画工作」とともに基礎技能に位置付けられている。そこで、本務校の「体育」の授業目標を次のように定めている。保育者として必要な身体運動に関する基礎的な知識と技能を習得させ、自ら動ける身体を作り体力の維持増強をはかる。また、子どもの発達をふまえ、保育における運動遊びの援助・指導に関する基礎的な知識や技能の習得を目指し実践的に学ばせる。前期において「自ら動ける身体作り」を中核にして学生の身体運動に関する資質の向上を図っている。「自ら動ける身体作り」の具体的な目標は次の通りである。

- ① 運動の極限までのびのびとリズムカルに身体を動かすことができるようにする
- ② 自分で多様な動きを豊富に見つけ動けるようにする
- ③ 動きの連続がなめらかで変化に富んだある感じをとらえた一連の動きを作れるようにする
- ④ 表現したいものになりきって動き、身体で表現できるようにする

以上のことを授業の目標の一部として次のことに留意しながら授業を行なっている。

- ① 毎授業の始めに本時の目標を知らせ、自己の目標をもたせ終わりにはまとめと確認をする
- ② 学生の「恥ずかしさ」に考慮して、一斉に動くようにする。また人とのかかわりを自然にもてるように、さらに各人が主体的に、責任もって動けるように2・3人で動き、最大5・6人のグループとする
- ③ 進め方は自由と即興を柱とするが、各時間最後には発表・鑑賞を行なう

そこで本研究では、授業内容や方法が、将来保育者となる学生に、自ら動ける身体を養成するのに妥当であるか、さらに課題を見出そうとするものである。

II, 方法

- 1, 対象 本校保育科2年生2クラス
計84名(女子82名 男子2名)
- 2, 授業実施期間 2004年4月～7月
- 3, 授業の実践
- 4, 検討の方法 ①教員自身の授業記録 ②学生の2回の自己評価 ③学生の毎時間の記述(学んだこと, 感想)

III, 結果および考察

- 1, 授業の実践(授業目標と内容の概要)
- 2, 学生の自己評価とその理由

各項目について94～100%の学生が「理解できた」「かなりできるようになった」「かなり楽しんで動く」またはそれに続く「少し理解できた」「少しできるようになった」「少し楽しんで動く」と回答し、授業の目標の各項目に達成感ももっている。

その内容を見ると、Iのびのびと大きく動くことについては64%の学生が理解できたと答えているが、IIのびのびと動くことができるようになることと実際にかなりできるようになったと答えているのは27%に過ぎない。しかし、「少し」も含めれば全員が理解できたと答え、94%の学生ができるようになったと答えている。IIIリズムカルに動くことを楽しむについては、73%の学生がかんり楽しんで動くことと答えているが、IVリズムカルに動けるようになることと実際にかなりできるようになったと答えているのは32%に過ぎない。しかし、「少し」も含めればほぼ全員が楽しむと答え、95%の学生ができるようになったと答えている。V人の動きを見ることができるようになるについては、40%の学生がかんりできるようになったと答えており、「少し」も含めるとほとんどの学生ができるようになったと答えている。VI自分で多様な動きを見つける方法が理解できるようになるについては、55%の学生が理解できたと答えているが、VII自分で多様な動きを見つけることができるようになることと実際にかなりできるようになったと答えているのは30%に過ぎない。しかし、「少し」も含めれば全員が方法を理解できたと答え、できるようになったと答えている。VIIIある感じをとらえた一連の動きを作る方法が理解できるようになるについては、58%の学生が理解できたと答えているが、IXある感じをとらえた一連の動きを作れるようになることと実際にかなりできるようになったと答えているのは27%に過ぎない。しかし、「少し」も含めれば96%の学生が理解できたと答え、97%の学生ができるようになったと答えている。X身体で表現できるようになるについては、51%の学生がかんりできるようになったと答えており、「少し」も含めれば全員が表現できるようになったと答えている。

以上の結果および評価の理由から、保育者養成としての体育における「自ら動ける身体作り」の目標は学生の理解を得、ほぼ達成されたと考えられる。保育者として必要な自ら動けること、子ども達の見本となるべくのびのびと動けること、子どもとともに身体で表現することができ、楽しむこと、さらに子ども達の動きを愛情をもって見守り、助言できる目を持つこと、そして何よりも、身体を動かし表現する喜びを体験し、友達とのコミュニケーションの中でこれらを学んだと言える。